

ニホンナシの発芽予測

2021年3月16日 南信農業試験場

<気温経過と生育>

昨年11月中旬から12月上旬の気温は、旬別の平均値で平年よりも1.5~2.9℃高く暖秋となった。また1月下旬~2月下旬の気温は、旬別の平均値で平年よりも1.7~3.2℃高く、かなりの高温となった。降水量は、年明け後の平均ではほぼ平年並みだったが、2月中旬~下旬の降水量は少なく、特に2月下旬は0mmだった。

ニホンナシはこの暖秋の影響で生育が遅れ、生育予測モデルにおける休眠明けは平年に比べて9日遅い1月30日~2月1日頃と推測された。平年よりも低温の日が少なかったためと考えられる。

一方、休眠明け後は気温が高いほど生育が促進される。3月に入ってから暖かい日が続いているため生育は早まっており、3月16日現在の生育は、平年に比べて11日間程度進んでいると推測される。

<生育予測>

3月16日時点の品種ごとの発芽予測は以下の通り、今後の気温の推移が平年対比-1℃、平年並み、+1℃、+2℃と仮定した場合の発芽日を予測した。

3月11日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年よりも高い確率が70%である。また、3月17日頃から5日間の平均気温は平年と比べて3.0℃以上高いと予想されている。

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、発芽は平年より11~12日早まると予測された。また、平年並みに推移した場合は、発芽は平年より8~11日早まる予測となっている。

なお、ニホンナシの生育は今後の気象により大きく変化し、発芽期に近づくほどその影響を強く受ける。今後の気象の推移や、実際の生育に注意する。

表 令和3年3月16日の時点での発芽日の予測値

今後の気温	発芽予測日(平年値との差)			
	幸水	豊水	南水	二十世紀
平年 -1℃	3/29 (-6)	3/21 (-10)	3/28 (-6)	3/25 (-8)
平年並み	3/27 (-8)	3/20 (-11)	3/26 (-8)	3/24 (-9)
平年 +1℃	3/26 (-9)	3/19 (-12)	3/24 (-10)	3/22 (-11)
平年 +2℃	3/24 (-11)	3/19 (-12)	3/23 (-11)	3/21 (-12)
平年値	4/4	3/31	4/3	4/2
令和2年	3/29	3/27	3/28	3/28

予測には発育速度モデル(DVR法)を利用している。予測は南信農業試験場内の調査樹のデータをもとにした。

予測日の()内は平年との差を表す。(2)なら平年よりも2日遅い。

「平年」は場内での平成3~22年(1991~2010年)の発芽日、開花日、満開日の平均を表す。